

アンケート

ごちようこ

芦屋室内合奏団

第3回 春のバロックコンサート



<http://www.vonetta.it/>

西宮市プレラホール

2003年4月6日(日)

開場13:30

開演14:00

主催 共済 東宮

団員名内室琴々

ごあいさつ

今年も春がやってまいりました。(当然ですが・・・)
昭和40年に発足した当団も早いもので38年目を迎えました。この間、毎年秋に定期演奏会を重ねて参りましたが、2年前より春にも小規模でアットホームな(曲目も会場も)というコンセプトをもとに「春のバロックコンサート」を企画し、第3回目を迎えました。今回は特に演奏される機会の少ない珍しい名曲を揃えてみました。又、ソロでも珍しいマンドリンやピッコロの独特の音色をお楽しみいただけたらと存じます。
最後に皆様方の相変わらぬご声援に感謝いたします。

2003年4月 芦屋室内合奏団 団長 青柳 良
団員 一 同

プログラム

A. ヴィヴァルディ マンドリン協奏曲 八長調

I. Allegro II. Largo III. Allegro

マンドリン 葛原 睦子

A. ヴィヴァルディ ピッコロ協奏曲 八長調

I. Allegro II. Largo III. Allegro molto

ピッコロ 松島 美香

A. ヴィヴァルディ マンドリン協奏曲 二長調

I. Allegro II. Adagio ma non troppo III. Allegro

マンドリン 葛原 睦子

< 休憩 (15分) >

J. J. クヴァンツ フルート協奏曲 ト長調

I. Allegro II. Arioso III. Allegro vivace

フルート 松島 美香

A. ヴィヴァルディ 4つのヴァイオリンのための協奏曲

I. Allegro giusto II. Largo III. Allegro

ヴァイオリン 鳥丸安雄、福永精一、福永千江子、戸倉啓子

◆◆◆

指揮 酒井 睦雄

芦屋室内合奏団

④ ヴィヴァルディ マンドリン協奏曲 ハ長調

アントニオ・ヴィヴァルディ(1678~1741)の約770曲の作品のうち中心となるのは協奏曲で450曲にも上る。ヴァイオリンを筆頭に弦楽器、管楽器、鍵盤楽器のいろいろな組み合わせの協奏曲がある。ヴィヴァルディは25歳で司祭に叙されたが生まれつきの持病のためミサを司式できず、ヴェネチアにあった女子孤児院兼音楽学校の教師となった。後年ヨーロッパ各地でも活躍するのであるが、学校の生徒たちに演奏させるために数多くの協奏曲などを作ったということである。

④ ヴィヴァルディ ピッコロ協奏曲 ハ長調

ピッコロの名はflauto piccolo(小型のフルート)に由来している。管の長さはフルートのほぼ半分なので楽器が手の中に隠れてしまうよう。キーのメカニズムはフルートと同様だが、1オクターブ高い音がでる。ベートーヴェンの「田園交響曲」で囀る小鳥はピッコロだったかなと調べるとこれはフルートで、ピッコロの方はティンパニと共に嵐の情景に

④ ヴィヴァルディ マンドリン協奏曲 ニ長調

原曲は「ギターまたはリュートのための協奏曲」。ギター、リュート、マンドリンの演奏家にはよく知られた曲で後世の編曲もいろいろあり、ギターとチェンバロ(またはハープ)、あるいはマンドリンとギターなど室内楽としても演奏される。第1楽章は力強いトゥッツィで始まり中間部でマンドリンはアルペジオによって弦合奏の旋律に色どりを添える。緩徐

④ クヴァンツ フルート協奏曲 ト長調

ヨハン・ヨアヒム・クヴァンツ(1697~1773)はドイツのフルートの名手であり作曲家。フルートのために協奏曲を約300、ソナタなど室内楽を200も残している。また奏法に関する著書もあり楽器の改良も試みた。彼の演奏に魅せられたプロイセン皇太子にフルートを教えた。国王フリードリヒ2世(大王)に即位するや王の宮廷に召され世を去るまでずっと王に仕えた。大王のために多数のフルート曲が書かれ

④ ヴィヴァルディ 4つのヴァイオリンのための協奏曲

「調和の靈感(作品3)」全12曲中第10番の協奏曲。1711年アムステルダムで出版されたこの曲集はヴィヴァルディはじめての合奏協奏曲集(独奏はヴァイオリン、チェロの各種組み合わせ)で伝統を脱するスタイル・内容を謳ったものである。バッハはこのうち6曲をチェンバロあるいはオルガンのための協奏曲に編曲しており、この曲も4台のチェンバロの協奏曲に編曲している。

マンドリンは洋ナシを半分にしたようなフレットのある弦楽器で、ピックではじいて演奏する。調律はヴァイオリンと同じだが4組8本による複弦を用いており、この曲が使われている映画「クレーマー・クレーマー」の題名のように、低弦側からG・G、D・D、A・A、E・Eとなっている。スチール弦を使用し速い音型やトレモロ奏法が得意である。急・緩・急からなるコンパクトな協奏曲で、女生徒たちのアンサンブルが想像されるような曲。

使われていた。特に鋭さのある高音がピッコロの特徴。ヴィヴァルディにはあと2曲、ピッコロのための協奏曲がある。曲はアレグロ、ラルゴ、アレグロ・モルトの三楽章で、跳躍音型や玉を転がすような軽快な動き、ラルゴの流麗なメロディーとともに独特の音色が生かされている。

楽章を経て終楽章は12/8の舞曲風でソロは華やかな技巧を発揮する。

ところでバロックの協奏曲では通奏低音にも注目して欲しい。弦楽の全奏からソロに移ると、「通奏」低音のチェロとチェンバロがソロを支えるので休む間がない。ソリストと息を合わせる「蔭のソリスト」でもある。

たのである。

第一楽章は勢いのよいトゥッツィで始まり、フルートの技巧が発揮される。第二楽章はト短調のアリオソ。これは「アリアとレンタティーボの中間的な歌」ということでフルートが語るように歌う。終楽章は下降音型が特徴の生气あふれる動き。バロック後期にあたっていて、新しさが聞かれる。

口短調

曲はいきなりヴァイオリンのソロとともに始まり、4本のヴァイオリンは自由に自己主張するようにそれぞれ変化のある動きを聞かせる。昨春のバロックコンサートでは「四季」の春夏秋冬を団員4人のヴァイオリン・ソロ・リレーで演奏しましたが、今回は互いに競い合う形で、旋律の変化、音色の変化などをお楽しみください。

葛原睦子 (マンドリン)

大阪樟蔭女子大学卒。マンドリンを川口優和氏に師事。

1986年、アンサンブル フィオーレディ オオサカを組織。以来、今日までコンサートミストレスを務める。1998年、東京紀尾井ホールに於いて「イタリアの調べ」に出演。ソリストとしても幅広く活動している。

1999年、ギリシャ、イタリアでの演奏会に出演。特にカンツォーネでの歌手との共演が多い。

1999年5月に豊中シティ・マンドリンアンサンブルを結成し指揮、指導。

豊中、奈良でマンドリン教室を開講。

松島美香 (フルート・ピッコロ)

2001年相愛大学音楽学部卒業。2002年同大学専攻科修了。同大学卒業演奏会、YAMAHA新人演奏会、他多数の演奏会に出演。2002年第39回なほ芸術祭「新進音楽家競演会」ピアノ・管弦打楽器の部において、最高得点にて新人賞を受賞。2002年11月スロヴァキア、ブラティスラヴァにてモイゼス弦楽四重奏団と共演。多くの聴衆を魅了し、高い評価を得る。

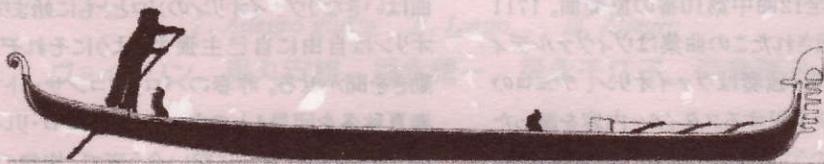
2003年1月室内楽の夕べにおいてキエフ・リセンコ弦楽四重奏団と共演。3月には相愛オーケストラとコンチェルトを協演。これまでにフルートを若林正史、大嶋義実、野津臣貴博、西田直孝の各氏に師事。

酒井睦雄 (指揮)

桐朋学園高等学校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斉藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F.フックス各氏に師事。71年より相愛オーケストラ指揮者、77年ザルツブルクにてO.スイトナー氏に師事。同年、東京にてS.チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001年には芦屋室内合奏団を率いてドイツのバンベルクにてバンベルク交響楽団団員とともにニューイヤーコンサート、ドレスデンにてフラウエン教会落成記念コンサート等を行い好評を博す。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、74年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜交響楽団常任指揮者、90年より高知室内管弦楽団指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。

芦屋室内合奏団

音楽監督	: 酒井睦雄	Vn:	鳥丸安雄	藤本恭子	福永千江子	戸倉啓子
団長	: 青柳良		福永精一	青柳良	黒川美恵子	児玉七恵
コンサートマスター	: 鳥丸安雄	Va:	中田久仁子	大内隆一	竹村久美子	音村圭一郎
マネージャー	: 福永精一	Vc:	鳥丸直子	宮崎晴夫	堀田一之	
部長	: 中田和夫	Cb:	中田和夫			
		Cembalo:	小津久子			



次回演奏会のお知らせ : 芦屋室内合奏団 第37回定期演奏会
2003年11月23日(日) 神戸朝日ホール